

## 激震! 新型コロナウイルスの特性

1. 地球上の全ての人々が感染してはじめて、コロナ感染は終息すること。

世界中を大混乱に巻き込んでいますが、これこそ今回の新型コロナウイルスは、ただ単にウイルスというだけではなく、新型すなわちウイルスではあるが、いままで地球上に存在したことの無い突然変異による変異種であることです。発生から現在まで世界各国および日本で得られた、疫学的および諸種の臨床症状・所見もこれを示唆しています。このような場合、赤子から全てのヒトは感染の洗礼を受ける必要があります。実際に多くのベイビーも PCR 陽性と報道されました。感染は持病なども含めて、最終的にその人の生と死の問題となります。

2. 感染直後は誰にもこれに対する免疫がなく、肺から体内に入ったウイルスは阻止するものがないので、暫く数を思うが様に増やします。免疫機能が正常ならば、やがて零からスタートして免疫反応が始まります。

ウイルス感染症は、免疫反応によって治癒します。まずIgM抗体が検出されれば、感染したことの証左になります（重要）。また抗体検出は免疫反応が始まった証として吉報です。しかし必ずしも完治を意味しません。完治には細胞性免疫の成立も必要です。また移植免疫でよく知られる組織適合性抗原（HLA）も免疫成立に関与します。それ如何では、新型ウイルス抗原に免疫反応が起こらない場合も実験的に示唆されています。この場合生存できません。

3. PCRの結果は体内のコロナのウの量（数）によるので、少ない時には検出されないときもあります。いまや殆どの方は陽性と思われます。勿論これからも検査は必要です。

4. テレビが連日、感染者、感染者と呼んでいるのは、感染者の中の発病者であり、正しくありません。

発症者（発病者）だけが感染者ではありえません。症状の出た人を感染者と名指すのは、日本政府の、そして全世界の見解・認識の間違いです。メルケルの実行生産数説もここから始まっているので、ナンセンスです。

5. ウイルス感染症には、不顕現感染（知らずに感染し、知らず

に治癒)と顕現感染(症状が出る=患者=病人)があります。ウイルス感染症では、前者の知らずに感染し、ウイルス保有者(キャリア)となります。完治するまでは、その全ての排泄物(ツバキ、ツバ、汗、血液、尿、便等)がウイルスを含むので、体外へまき散らすことが起こり、他人にうつすこととなります。昔から、風邪は治りかけに人にうつし易いと言われてきたのは正解です。その不顕現感染者の中から発病(発症)し、治療を受けることになる人がでます。

繰り返しますとこの入院患者(病人)の数が、テレビで刻々報道される人数ですが、これは発症者数です。マスコミも日本政府もそして世界の国々の首長も、ウイルスに感染しているのはこの発病した人達だけと考えていますね。

流行終息予測などもこの発病者数・死亡者数から予測しようとしています。これはケースバイケースの個々人の偶発的成り行き(結果)の集積なのであって、感染終息予測の指標とはなりません。

ただ刻々示されるグラフから、コロナ感染が今非常に活発な拡がりをみせていることは解ります。そしてコロナが発生して数

か月の今、一気に免疫を獲得した人口も増えていると考えられます。

## 5. コロナ感染防止対策

現在新型コロナウイルス感染症にたいし、厳戒態勢が敷かれていることは、全ての点において正しい処置と考えられます。街から人が居なくなったことは、流行促進の一つの要因である人口密度を下げる効果をもたらしており、望ましいです。しかし、この有効な新型コロナウイルス感染症の蔓延阻止対策に到達するまでに、世界中迷走し時間がかかった感があります。

6. 日本政府は、知らずに感染し、症状の出ない不顕感染者を忘れていています。その人達が無秩序・無自覚に動き回っていることが、感染原因不明、感染の由来が辿れないという事態を生じているわけで、感染拡大の一因でありその正体です。

7. すでにわれわれの殆どは感染している可能性があります。また既に免疫を獲得した人口も世界的に増えているはずで、その人達には免疫記憶が残るので、再感染しても早く免疫が反応します（治癒しやすい）。

しかし感染しているか否かのタグがないので、ひとりひとは

感染者である認識のもとに、自覚ある行動をとる必要があります。他人にうつさないために、（未感染のルーチンを守り、マスク、手洗い、歩行のマナー、人一人間距離は1～2メートル、対面で話さない、などなどです。基本的に他人に1メートル以内に近づかない、他人も自分に1メートル以内に近づかせないことが肝要です。

8. 新型コロナウイルス感染症の特徴・本質を理解した上で、自覚ある行動ができる人は、現状に即した環境を整え、以前と同じく仕事をして差し支えないと思います（仕事の再開）。企業は自社内の人の流れも交通整理もしやすく、すぐにも仕事すべきです。デパート、大型ショッピングセンター殆ど可能です。健全な小商店も仕事を休む必要はないと思います。

9. 体内で免疫反応との押し合いへし合いで、ウイルス量（数）が変動し、その数が急に増えたときなど、急変は起こり得ます。個々の人はその心積りが必要です。母親は子供の側にいるべきです。

10. 自覚ある行動が期待できない子供・学生・成人には、政府が確実に指導し教育し責任を持つべきです

11. またウイルスは乾燥するとチリ、ホコリ（ハウスダスト、花粉、街中の排気ガス、黄砂、鳥のフン等のダスト）に乗って漂い、風によって空中を移動する問題があります。街中のダストの多寡は、都市部の気象・風速、地形人口密度等によるようです。なるべく自宅に留まるべしの決定はこの点で正解であり、帰宅時は花粉症対策に準じて外で服を掃った方が良いでしょう。ウオシュレットの便座は蓋を閉じてから流すは正解です。

詳しくは解りませんが、チリ・ホコリがグローバルレベルでの移動する可能性については、パンデミックと関わりを持つかも知れません。空は一つで機能しています。

## 12. 新型コロナの終息予測：

理論的に世界の全てのヒトが感染を経験し、免疫獲得の成功或いは不成功の結果以って、終息します。今回の重大なパンデミックを起こした新型コロナの終息予想は、厳戒態勢のもと 3M 6M そして 1 年で達成されるものと考えられます。殆どの人が感染して、一応コロナ感染は終息するものとみられます。その後新型コロナは、3 年位かかって、地球規模の既存のウイルス群の一つとして存在するようになるが、しかしその特異性は

保持するため、散発的流行が繰り返されるとかんがえられます。

13. 繰り返しますが、感染者は症状の出た人だけと言う世界中の政府の認識・見解は、間違いです。今や私達全員です。

以上

2020年4月10日

MRCI 榎殿放射線科本院 免疫部門